日本全国のキーパーソンが集結!

地域おこし人サミット2018

プログラム

日時：２０１８年6月30日(土)-7月1日(日)
- 開会　　6/30(土)13:45-13:55
- 分科会　6/30(土)14:00-17:30
　　7/1(日)　10:00-11:30
- 全体会　7/1(日)　13:00-16:00

会場：都市センターホテル(分科会)
　　JA共済カンファレンスホール(本会議)

未来を創る財団設立5周年記念プロジェクト

一般財団法人
未来を創る財団

地域おこし人サミット2018

～地域力を活かして、連携型の地域課題解決を実現する～

地域に新しい「解決する力」を生み出すために～ヒト、地域、課題、みんなでもっとできること～

少子化と人口流出による働き手不足は、地域が衰退する全国共通の問題となっている。地域を活性し発展させるためには、地域自らの努力による地域力の強化が必要である。人手不足などを理由とせず地域の力を掘り起こすために、未来を創る財団はイニシアチブNipponプロジェクト(INP)第2弾として「地域おこし人サミット」を企画提案する。
＊本企画は未来を創る財団設立5周年記念プロジェクトです

日本の各地には、地域おこしに取り組み、素晴らしい成功例をもつ地域おこしのキーパーソンがおられるが、相互のノウハウ共有や連携には至っていない。
本企画は、地域や業態での成功体験、ノウハウをヒントとして、それぞれの地勢、風土、気風、歴史などの特性を活かし、地域圏文化の再生・交流、ノウハウの共有・拡大、都会人脈のネットワークづくり、ファンドレイジングの応用など、地域戦略の構築、進展を目ざします。分科会では、地域おこしの達人を囲むワークショップを行います。
本サミットで「地域おこし人サミット実行委員会」を結成し、持続的な活動として継続。情報の共有、ネットワーク化をはかり、成果を「提案」「提言」として公表します。

[実施要項]

日　時：	2018年　6月30日(土) 13:45-20:30 7月 1日(日)　9:00-18:00
会 場：	都市センターホテル　会議室 共済ビルカンファレンスホール 海運ビル1Fアンカーポイント
主　催：	一般財団法人　未来を創る財団
後　援：	株式会社ウェッジ「WEDGE」
進行管理：	株式会社ファンドレックス

参加人数
約170名

[プログラム]

◆6月30日（土）◆
13:45-13:55 開会
14:00-15:30 分科会1・2・3（都市センターホテル601/604/605）
16:00-17:30 分科会4・5・6（都市センターホテル 607/604/605）
18:00-20:30 懇親会　　（都市センターホテル606）

◆7月1日（日）◆
9:00-9:50　喫茶タイム(都市センターホテル)
10:00-11:30 分科会7・8・9（都市センターホテル601/604/605）
[各自昼食・移動]
13:00-16:00 全体会　　（JA共済カンファレンスホール）
16:30-18:00 交流会　　(海運ビル1F「Anchor Point」)
*本企画は未来を創る財団設立5周年記念プロジェクトです

紹介ページ　→ http://www.theoutlook-foundation.org/

【分科会･懇親会　会場】
◆都市センターホテル
〒102-0093　東京都千代田区平河町2-4-1
TEL.03-3265-8211　FAX.03-3262-1705
https://www.rihga.co.jp/toshicenter/

【全体会　会場】
◆ＪＡ共済ビル「カンファレンスホール」
東京都千代田区平河町2-7-9　ＪＡ共済ビル1F
（ＪＡ共済ビジネスサポート株式会社）
TEL.03-3265-8716　FAX.03-3265-8719
http://www.jankb.co.jp/conference-access.htm

【交流会　会場】
◆Anchor Point　（アンカーポイント）
東京都千代田区平河町2-6-4　海運ビル1F
Tel.03-3263-8378
http://anchor-point.jp/

6月30日(土)

13:45 ↓ 13:55
開会のご挨拶　未来を創る財団会長　國松孝次　601

14:00 ↓ 15:30

分科会1
地域おこし人の条件
塩川慎也、真野毅
生津勝隆、磯山友幸
友森敏雄
601

分科会2
よいモノを高く売るしくみ
水代優、渡辺義文
江頭実、西村総一郎
杉本洋文、國松孝次
関口春江
604

分科会3
自然循環型のしくみ
イノウエヨシオ、船橋慶延
船橋友紀恵、安田亮
実取義洋、田中優未
蜂谷潤、島崎憲明
605

15:30〜16:00 ティーブレイク（601）

16:00 ↓ 17:30

分科会4
共感資本主義
イノウエヨシオ、塚原敏夫
鵜尾雅隆、伊藤大貴
志賀久美子
607

分科会5
新しい切り口で町おこし
塩川慎也、田口幹也
隅田徹、五月女圭一
池上眞平、田村圭介
齋藤好貴、桝田隆一郎
604

分科会6
地域ブランド構築
水代優、宮田理恵
河野文寿、中村慎哉
淺野真澄
605

18:00 ↓ 20:30
懇親会　ご挨拶　未来を創る財団代表理事　606

7月1日(日)

9:00〜9:50 喫茶タイム（601）

10:00 ↓ 11:30

分科会7
官民協働が生み出す新しい出会い
イノウエヨシオ、古川康造
岩永幸三、江頭実
中貝宗治
601

分科会8
コミュニティ再生のアイデアBOX
磯山友幸、平野彰秀
亀井信幸、河内ひとみ
幸田栄長、古川綾
604

分科会9
魅力発信の場づくり
水代優、畦地履正
福原淳嗣、佐藤芳治
宮田理恵
605

昼食・移動　JA共済カンファレンスホール

13:00 ↓ 16:00
全体会　(磯山友幸座長)
13:00〜13:05「開会挨拶」5分（國松孝次）
13:05〜13:50「"わがまちの地域おこし戦略"について」15分×3人＝45分
13:50〜14:20 意見交換30分
14:20〜14:30 休憩10分
14:30〜15:15「分科会からの報告」5分×9人＝45分
15:15〜15:55　討議 40分
15:55〜16:00「閉会挨拶」5分（石坂芳男）

移動　海運ビル1F「Anchor Point」

16:30 ↓ 18:00
交流会　挨拶　未来を創る財団

「地域おこし人サミット」分科会テーマ

◎コーディネーター　★プレゼンテーション　☆ミニ・プレゼン　〇コメンテーター

分科会1「地域おこし人の条件」（601）
Wedge編集長のコーディネートによって「地域おこし人」の条件を探ります。連載に携わった写真家も参加します。
◎塩川慎也（Wedge編集長）／★真野毅（長野大学教授）／〇生津勝隆（写真家）、磯山友幸(ジャーナリスト)、友森敏雄(編集者)／

分科会2「良いものを高く売る仕組み」（604）
熊本県菊池の事例を導入にして、6次産業化、高付加価値など成功パターンを考えます。
[キーワード]6次産業化、高付加価値
◎水代優（グッドモーニングス代表）／★渡辺義文（自然派きくち村店長）／〇江頭実（菊池市長）〇西村総一郎(全旅連青年部長)、杉本洋文（ローカルファースト財団副理事長）、國松孝次（未来を創る財団会長）、関口春江（753プロジェクト）

分科会3「自然循環型の仕組み」（605）
八幡平の牧場の事例を導入に循環型農業による町おこしを考えます。動物の命を守る取り組みでもあります。
[キーワード]馬糞堆肥、動物の命
◎イノウエヨシオ(ファンドレックス）★船橋慶延（「八幡平ジオファーム」代表)、船橋友紀恵(八幡平ジオファーム)／☆安田亮（島根県美里町職員）☆実取義洋(オーガニック農業家)／〇田中優未（ゲイト）、蜂谷潤（うみ路代表理事）、島崎憲明（上川大雪酒造会長）

分科会4「共感資本主義」（607）
地域おこしの悩みの種は資金集め。クラウドファンディングなど「共感」を呼び起こして資金を集めるファンドレイジングの達人たちが集まります。[キーワード]ファンドレイジング、共感
◎イノウエヨシオ／★塚原敏夫(上川大雪酒造社長)、鵜尾雅隆(日本ファンドレイジング協会)／〇伊藤大貴（元横浜市義）、〇志賀久美子（753プロジェクト）

分科会5「新しい切り口での町おこし」（604）
アーティストや意識の高い人たちを集めることで町おこしを狙うケースを考えます。Uターンや移住の起爆剤にもなっています。[キーワード]移住、アート、関係人口
◎塩川慎也（Wedge編集長）／★田口幹也(城崎国際アートセンター館長)、☆隅田徹(神山町えんがわ社長)、☆五月女圭一(ゲイトCEO)、☆池上眞平(岡山・総社アートハウス・オーナー)、☆田村圭介(徳島・美馬市フナトトオーナー)／齋藤好貴（なごみ艇主人）桝田隆一郎（満寿泉・桝田酒造社長）

分科会6「地域ブランド構築」（605）
地域のブランドを担う商品をどう創っていくか。それを盛り上げるイベントは。宮崎の事例を導入に議論します。
[キーワード]商品企画、イベント集客
◎水代優／★宮田理恵(宮崎カテナ社長)／〇河野文寿（山香煎餅本舗代表取締役）、中村慎哉(鹿児島中村酒造場)、淺野真澄(ローカルファースト財団)

分科会7「官民協働が生み出す新しい出会い」（601）
高松丸亀町商店街の事例を導入に、様々な担い手が連携して新しい価値を生み出している事例を話し合います。[キーワード]商店街再生、ふるさと納税、コレクティブ・インパクト
◎イノウエヨシオ／★古川康造(高松丸亀町商店街理事長)、岩永幸三(佐賀県職員)／〇江頭実（菊池市長）、中貝宗治(豊岡市長)、

分科会8「コミュニティ再生のアイデアBOX」（604）
水力発電を使った地域再生や、公民館活動などコミュニティの再生について議論します。
[キーワード]ローカルファースト、水力発電、公民館
◎磯山友幸／★平野彰秀(石徹白水力発電代表)、★亀井信幸(ローカルファースト財団)、☆河内ひとみ(広島大竹市玖波公民館)／〇幸田栄長(かわち観光局)、古川綾(薬局のネットワーク主催)

分科会9「魅力発信の場づくり」（605）
地域の魅力を発信する「道の駅」の伝道師を導入に、新しい旅やおもてなし等の「場づくり」を考えます。
[キーワード]道の駅、新おもてなし
◎水代優／★畦地履正(四万十ドラマ社長)、☆福原淳嗣（大館市長）／〇佐藤芳治（北海道上川町長）宮田理恵(宮崎カテナ社長)

主な参加者

西村　総一郎(株式会社西村屋　代表取締役社長/全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会青年部部長)
2012年より、幻の公共事業桃島バイパス復活による城崎温泉街の交通環境改善実施のための働きかけ(※20年以上前に用地買収不調によりとん挫したトンネル・バイパス建設は劇的に温泉街の交通環境を改善する事業)それを復活・実現させるため行政・住民などを巻き込んで継続的に活動中。2020年代完成、完成の折には新たな交通ルールの導入を目指す。2013年　城の崎にて著者志賀直哉城崎来訪100年を機にNPO法人本と温泉立ち上げ（副理事長として）

真野　毅(長野県立大学教授)
京セラに1978年入社。稲盛名誉会長の下で、ベンチャー投資、J/V、M&A等を通じた事業提携を推進し、米国子会社の経営陣として京セラの海外戦略を担当した。３１年の民間企業経験の後、公募で豊岡市副市長に2009年に就任。地域おこし人材の登用・支援により、行政と民間企業との協働を推進し、地場産業である鞄産業の活性化や城崎温泉のインバウンドの拡大を実現した。

安田 亮(島根県美郷町職員)
1999年（H11）から今日まで、鳥獣対策をきっかけにイノシシの資源利用を通じて地域おこし、人おこしに携わり、“おおち山くじら”の地域ブランドの創出に携わる。

江頭　実(熊本県菊池市長)
1954年熊本県菊池市生。菊池高校から九州大学経済学部へ進み、1976年卒業、富士銀行に入行。ニューヨーク、ロンドンなど海外畑を歩む 。スイス富士銀行社長、ロンドン支店長などを歴任。2009年～12年ソフトバンク勤務。2013年4月菊池市長に初当選。様々なアイデアで、ふるさとの宝を全世界に売り込む。2017年の市長選で再選。

渡辺　義文(自然派きくち村店長/有限会社渡辺商店代表取締役)
1997年に福岡から熊本県菊池市帰り酒屋の3代目を継承。当時は規制緩和で酒屋の家業は大変な時期、環境問題の講演をきっかけに無農薬のお米の販売を始めるが全く売れなかったが、自ら米作りに取り組み始める。初めて作ったお米で焼酎を作ったことで、1次産業からの商品ができることに気づく。地元の無農薬の農産物を原料に商品開発を行い、ネットショップ「自然派きくち村」で農産物の販売を開始。生産者が価格を決め、どのように販売するかが商売。「販売業者、消費者を含め、みんなが納得して幸せになるような社会を残したいから」今では全国に2.5万人を超える顧客を持つまでに成長。

実取　義洋(無農薬無肥料農業家)
熊本県菊池市龍門地区出身、無施肥無農薬のお米作りを主体に無農薬の農業を営む。長女の小学校入学を機に2009年に同地区へＵターン。2013年に小学校閉校後、跡地活用地域協議会を開催、その後の移住定住促進センターへ繋がる。菊池市域学連携事業に地域おこしの視点で給食をとらえ「給食を考える会菊池」として参加。2016年3月、同事業の一環で理想の給食を提供したシンポジウム開催。2012年新規就農、現在は少子高齢化の進む地域で子ども6人のＰＴＡ、消防団、農協など中山間地の各種役職の担い手となっている。就農前は環境活動ＮＰＯへ従事。

船橋　慶延(八幡平ジオファーム[企業組合八幡平地熱活用プロジェクト]代表理事)
大阪市出身　大阪コミュケーションアート専門学校卒業後、馬運車運転の修行の為の大型トラック運転手を経て、栃木県の那須や北海道で競走馬の育成に従事する。2012年に岩手県八幡平に移住。クラリー牧場への勤務をきっかけに馬ふん堆肥づくりに注力する。馬ふん堆肥の安定発酵、生産の為のエネルギーを探す中で地熱と出会い、企業組合八幡平地熱活用プロジェクトを設立。地熱活用と馬由来資源の活用をベースにして、引退競走馬の余生を支えられる仕組み作りの為にマッシュルームの生産販売と、馬ふん堆肥の販売・普及に奔走している。

船橋　友紀恵(八幡平ジオファーム/理学療法士)
神奈川県小田原市出身。理学療法士として、病院勤務にてリハビリテーションに従事した後、大阪、栃木、岩手、北海道に馬とともに転居。北海道にて乗用馬の飼育、障がい者乗馬などに携わる。現在は岩手県八幡平市にて夫が務めるジオファームにこうれ医者て馬を飼育するとともに、隣接する旭日の湯温泉内にある通所介護施設にて地域の方々のリハビリテーションに関わっている。

塚原　敏夫(上川大雪酒造代表取締役社長)
野村證券、AIG、リクルートエグゼクティブエージェントを経て、2012年 北海道出身のフレンチの巨匠 三國清三シェフと共に、北海道上川町が観光誘致で創設した「大雪森のガーデン」内にレストラン・ヴィラ（宿泊施設）・ジェラテリア・カフェを出店。レストランは2017年 JAL国内線ファーストクラスに採用され、ミシュランガイド2017でも紹介された。2017年 上川町の地域活性化・ブランド化推進の為、北海道戦後初の日本酒の酒造会社「上川大雪酒造」を設立し 初代蔵元となる。

島崎　憲明(上川大雪酒造取締役)
北海道出身。小樽商科大学を卒業し1969年に住友商事に入社。米国住友商事（ニューヨーク駐在）、住友商事主計部長を経て1998年取締役就任、その後、代表取締役副社長を務めた。経団連企業会計部会長や金融庁会計審議会委員などを歴任。国際会計基準委員会財団（IASCF）の評議員も務めた。野村ホールディングスなどで社外取締役を務める。故郷の北海道に蔵元を新設した「上川大雪酒造」プロジェクトでは中心的役割を務める。

鵜尾　雅隆(認定NPO法人日本ファンドレイジング協会代表理事/株式会社ファンドレックス代表取締役)
JICA、外務省、NPOなどを経て、2008年NPO向け戦略コンサルティング企業（株）ファンドレックス創業、2009年寄付・社会的投資10兆円時代の実現をめざし、日本ファンドレイジング協会を創設し、2012年から現職。認定ファンドレイザー資格の創設、アジア最大のファンドレイジングの祭典「ファンドレイジング日本」の開催や寄付白書・社会投資市場形成に向けたロードマップの発行、子供向けの社会貢献教育の全国展開など、寄付・社会的投資促進への取り組みなどを進める。GSG社会インパクト投資タスクフォース日本諮問委員会副委員長なども務める。

隅田　徹(徳島県神山町「株式会社えんがわ」代表/株式会社プラットイーズ 会長株式会社神山神領（WEEK神山）代表)
海外ニュース配信会社での勤務を経て2001年に映像のデジタル・アーカイブを手がける（株）プラットイーズを創業。2013年、徳島県神山町に同社のサテライトオフィス（えんがわオフィス）を開設。同時に徳島で4K映像を取り扱う新会社「えんがわ」を設立。2015年には町民株主50名による宿泊施設「WEEK神山」を開業。

五月女圭一(ゲイト 代表取締役CEO/Founder、ホリウェル代表取締役、Huber.特別顧問、国際社会動態研究所主任研究員、ミャンマー現地法人 Pmark Vice President、シプード顧問、フクダリーガルコントラクツアンドサービシス ICT顧問)
現在、東京都内に10数店舗の居酒屋事業を切り口に、自立的かつ持続可能なビジネス構造への改革を進めている。「飲食店はコミュニケーションハブである」「中小企業は実証実験の場である」など既存の固定概念にとらわれないスタイルで、商品品質をあげるために、上流に向かい、地域に寄り添い、自ら漁師になり、三重県で漁業水産業に取り組むなど、垂直統合の実現と根本的な地域問題解決を図っている。

田中　優未(株式会社ゲイト　構造改革戦略責任者 CSO/水産経営企画室 室長/CSV諮問委員長Axon90 The Design Hub Indonesia ビジネスパートナー)
働き方の改革が進みつつある現在は自己を改革への実験とし、アジアではAXON90 Desigh Hubインドネシアにてプロデューサーを、またローカル企業へはアドバイザーなどとして外向きのベクトルの中活動する一方で、日本国内では株式会社ゲイトにてCSO、CSV諮問委員長として、社会的価値の創造を考慮しつつ、地方創生へつながる都市計画、六次産業化への取り組み（漁村・農村の復興）、飲食事業の構造改革、インバウンド事業を兼任するなど内向きのベクトルの中でグローバルな視点から活動の場所・バイアスにとらわれず幅広く活動している。

池上　眞平(岡山・総社アートハウス・オーナー/NPO 技術立脚型経営研究会 理事)
富士フイルムにて約40年間,研究開発etcに従事。約10年前に出会ったNPOハート・アートおかやま代表の田野智子さんが,子供達のワークショップの会場(秦川邸)として活用。約3年前に出会った松本剛太郎さん（一級建築士,アーティスト)と伊永和弘さん(アーティスと)が本格的に実家をギャラリーとアトリエに改装し,アーティストや地元の人達を含む様々な人達が集う場(総社アートハウス)として多くの方々の協力を得ながら活用中。

田口　幹也(城崎国際アートセンター館長/広報・マーケティングディレクター)
2011年東北大震災を機に、豊岡市へ帰郷。「おせっかい。」として、市のPR事業等にかかわる。志賀直哉来湯１００周年事業として、NPO法人本と温泉の立ち上げに協力。城崎温泉街でしか買えない文学作品を企画。また、豊岡市が毎年東京で開催している「豊岡エキシビション」の企画・運営等を2013年より担当。従来型のコンベンションセンターを借りたイベントからの脱却を図り注目を集める。2015年4月より城崎国際アートセンター（KIAC）の館長に就任。地方創生の戦略拠点としてのKIACの運営に日々奮闘中

田村　圭介(徳島・美馬市脇町「フナトト」オーナー/株式会社ヴィレッジズ代表取締役/Hammosurfing協会理事/TodaysArt JAPAN)
12年に及ぶ神戸でのアパレル企業勤務後、地元徳島に戻り、農業生産法人の経営に携わる。その後、空き家の地活用によるエリアマネジメントを行う（株）ヴィレッジズを立ち上げ、雑貨と喫茶のフナトトを開業する他、徳島大学×徳島新聞社　起業塾「まちしごとファクトリー」の立ち上げ・設計・運営など活動の幅を広げる。空き家シェアリングプロジェクト「ハンモサーフィン」の立ち上げ・運営、アートカンファレンスAACTOKYOの一員として、東京／神戸など都市部でのアートイベントの運営、徳島でのアーティストインレジデンスの企画・運営も行う。

河野　文寿(株式会社山香煎餅本舗　代表取締役/あしもと逸品プロジェクト世話人)
草加せんべい屋の二代目。埼玉県草加市にあるせんべいのテーマパーク「草加せんべいの庭」を2008年にオープン。お客様が草加せんべいを焼く体験が出来るサービスを開始。10年が過ぎ、年間2万4000人以上がせんべい焼きを体験している。2017年銀座に出店し、草加せんべいソフトクリーム、草加せんべいチョコなどが人気で、多数のメディアに取り上げられる。本業は煎餅の製造卸であり、化学調味料を使用しない商品開発技術によって、全国のお土産開発、OEM製造を行っている。

中村 慎哉(中村酒造場 取締役・杜氏[製造責任者])
『伝統産業の価値創造』『造り手に価値を』をテーマに、ものづくりに携わる若手とチームを組んで、これまでになかった発信を行う。主に活動するのは、食事会を通して鹿児島の古き良き文化を今の自分達のフィルターを通して伝える【Tables】と、南九州の酒造りに携わる若手が自身の想いをプレゼンテーションする【Futures】の２つ。

宮田　理恵(カテナ株式会社代表取締役/宮崎県みやざきブランドマーケティングアドバイザー)
伝統野菜・佐土原ナスのブランディング、宮崎県きんかんヌーボーパーティプロデュース、宮崎県カラダグッドミヤザキブランディング、焼酎ノンジョル/宮崎パーティプロデュース（東京、宮崎、パリ、ミラノ）など、宮崎の食と人を国内外にアピールし、ブランディング、物を動かすだけでなく、宮崎へ呼び込む仕掛けも行っている。

幸田　栄長(NPO法人地域情報支援ネット理事長/一般社団法人全国自治会活動支援ネット理事)
2005年東大阪市自治協議会だより等機関紙発行支援（現在に至る）同年防犯・防災BOX「みまもりロボくん」発表。2009年内閣府及び総務省に『市民による市民のための地域再生に向けて』政策提言。2012年新しい公共・地域人材養成『まちづくり未来塾』開講。2014年全国自治会活動支援ネットを法人化。2014年河内観光局を設立し「歴史と観光展」開催。2017年みまもりロボくんⅲ」大阪大学大学院と「ITを用いた地域連携に関する共同研究」として調印。2017年経済産業省次官・若手プロジェクトのメンバーを迎え『まちづくり未来塾・勉強会』開催。2018年『歴史と観光・民なのまちづくり展』『大阪府の登録有形文化財写真展』開催（第３回文化庁事業）

岩永　幸三(佐賀県男女参画・女性の活躍推進課長/認定NPO法人日本IDDMネットワーク副理事長兼事務局長)
佐賀県庁の初代県民協働推進担当官。協働化テスト（協働の提案制度）、プロボノ、マッチングギフト方式による市民コミュニティ財団への補助、ふるさと納税のNPO等指定、NPO/NGOの誘致等に携わる。「新しい公共」推進会議の専門調査会委員、地域に飛び出す公務員を応援する首長連合の初代事務局長を務めた。公務外では認定NPO法人日本IDDMネットワークで“資格無”のファンドレイザーとして１８年目の活動中。主に不治の病”1型糖尿病”を治る病にするために研究助成を行っている。

古川　康造(高松丸亀町商店街振興組合理事長/高松まちづくり株式会社　代表取締役)
商店街の生産性を高めるために、土地の所有権と利用権の分離を図り、合理的なテナントミックス（業種の再編成）を行うことの出来るエリアマネジメントの仕組みを確立した。

中貝　宗治(豊岡市長/一般社団法人豊岡観光イノベーション理事長)
2001年7月より兵庫県豊岡市長　豊岡市の戦略の旗印－「小さな世界都市」を創る　を主導。「小さな世界都市」実現の柱１)受け継いできた大切なものを守り、育て、引き継ぐ観光のイノーベーション、観光によるまちのイノーベーションを起こす。２)芸術文化を創造し、発信する城崎国際アートセンター。３)環境都市「豊岡エコバレー」を実現する・コウノトリの絶滅と復活・ラムサール条約の登録農業は決定的に重要。農家、JA、県、市が一体となって、コウノトリを育むお米は、高い付加価値を生み出している。４)「小さな世界都市」市民を育てる・ふるさと教育・英語の修得・演劇によるコミュニケーション能力の修得・ここでいいのだ。

亀井　信幸(ローカルファースト財団理事長/茅ヶ崎商工会議所会頭/亀井工業ホールディングス株式会社代表取締役)
茅ヶ崎商工会議所会頭茅ヶ崎で128年以上の老舗企業を率いる一方、青年会議所、商工会議所の役職を担うなかで、企業の社会的責任、地域において果たす役割を追究。2011年に有識者の方を招き、広い視点からのまちづくり関する研究会を発足。2013年、海外視察で感じていたそこで暮らす人の豊かさの根底にある「ローカルファースト」という考え方を伝えようとこのキーワードを自然な形で取り入れる海外都市の現状に加え、茅ヶ崎や様々な地域でローカルファーストを実践している人物や文化の事例などが収められている「ローカルファーストが日本を変える」を刊行。

亀井　泰人(ローカルファースト財団評議員/グローバルキッチン株式会社代表取締役)
ローカルファーストの言葉、価値観を多くの方に広げる運動を展開2015年研究会発足以来、茅ヶ崎や様々地域で実践されているローカルファーストをテーマに年2回、シンポジウム開催、ジャーナトの発行商店街の活性化としては、空き店舗を利用して期間限定ショップ、まち歩きツアーの開催児童向け活動として、近隣大学との協働による、教材、学童保育への出張授業の開催その他、商店街関係者、行政関係者の視察受入、講演活動など。

若菜　嘉樹(ローカルファースト財団評議員/亀井工業株式会社　取締役)
ローカルファーストの言葉、価値観を多くの方に広げる運動を展開2015年研究会発足以来、茅ヶ崎や様々地域で実践されているローカルファーストをテーマに年2回、シンポジウム開催、ジャーナトの発行商店街の活性化としては、空き店舗を利用して期間限定ショップ、まち歩きツアーの開催児童向け活動として、近隣大学との協働による、教材、学童保育への出張授業の開催その他、商店街関係者、行政関係者の視察受入、講演活動など。

津藤　登(ローカルファースト財団理事/亀井工業ホールディングス株式会社　取締役)
ローカルファーストの言葉、価値観を多くの方に広げる運動を展開2015年研究会発足以来、茅ヶ崎や様々地域で実践されているローカルファーストをテーマに年2回、シンポジウム開催、ジャーナトの発行商店街の活性化としては、空き店舗を利用して期間限定ショップ、まち歩きツアーの開催児童向け活動として、近隣大学との協働による、教材、学童保育への出張授業の開催その他、商店街関係者、行政関係者の視察受入、講演活動など。

淺野　真澄(ローカルファースト研究会代表/株式会社嘉祥 マネージャー)
茅ヶ崎や様々地域で実践されているローカルファーストをテーマに年2回、シンポジウム開催など茅ヶ崎を中心に活動。地域活性化の一環として、商店街の空き店舗を利用して、周辺のママさんたちとの100人ディスカッションを行うことで地域ニーズを聞き取り、モノの売買だけではなく、地域の人たちが気軽に集まることで地域の交流拠点になることも目的とし、期間限定ショップを行い、空き店舗の新たな可能性を見出す。その他、商店街関係者、行政関係者の視察の受け入れなどローカルファーストを多くの方に広げる活動をしている。

福原　淳嗣(大館市長)
大館市議会議員、衆議院議員政策担当秘書官等を経て、平成27年より大館市長。「匠のまち大館」「連携のまち大館」「にぎわいのまち大館」「ひとづくりのまち大館」「安心のまち大館」５つの柱は、その実現を通じて、大都市圏に住む活動的な高齢者世代の地方移住の促進に係るモデル事業の受け皿になる、と強力に推進中。フットワークのよさで、県内、全国市長との交流、連携も精力的に進める。忠犬ハチ公の生まれ故郷大館市として、渋谷区との交流はとくに盛ん。

河内　ひとみ(広島県大竹市立玖波公民館職員/広島大学客員研究員)
マンネリ化した公民館のイメージアップを図るため「おしゃれな学び空間」である「学びのカフェ」を創造。また大幅な刷新を図り、まちを元気にする「地域ジン」が誕生。オリジナルTシャツ・テーマソングなど作成。その後、空き古民家を利用した「古民家deカフェ」地域総出演のファッションショー「くばコレ」「KUBAシネマ」開催。2015年度文部科学省 優良公民館表彰最優秀館（全国１位）受賞。2015年度　広島県チャレンジフォーラム地方創生「まち」部門 受賞。

平野　彰秀(NPO法人地域再生機構副理事長/石徹白農業用水農業協同組合／郡上カンパニー／HUB GUJO)
1975年、岐阜市出身。東京大学工学部都市工学科・同大学院環境学修士。北山創造研究所、外資系経営コンサルティング会社を経て、2008年、岐阜市にUターン。2011年、100世帯250人の集落・岐阜県郡上市石徹白（いとしろ）に移住。集落ほぼ全戸出資による石徹白農業用水農業協同組合を設立し、小水力発電事業を立ち上げた。その様子は、ドキュメンタリー映画「おだやかな革命」（2018年公開）に取り上げられた。近年は、HUB GUJO 理事、郡上カンパニーディレクターとして、郡上市における新規事業や社会システムを創出する仕組みづくりに取り組んでいる。

畦地　履正(四万十ドラマ社長)
四万十川の自然環境を保全しながら活用することをベースに、約30種類の独自商品の開発・販売に取り組む。道の駅「四万十とおわ」の指定管理を2008年春まで10年間にわたって引き受け、大成功を収めた。地域の栗やお茶をブランド化、「四万十地栗」のモンブランは全国区に。京都府南山城村の道の駅の開発など全国の地域おこしにも協力する。東京で定期的に「あしもと逸品会議」を開催、各地の人材ネットワークのハブを目指す。

古川　綾(株式会社マディア代表取締役)
地域の生活者と医療職・介護職をつなぐ"薬局"づくりから地域の健康寿命延伸を目指す。国内初の地域薬局を活用した多医療職協働の糖尿病重症化予防事業モデルを開発し、長崎県対馬市、長野県松本市、大阪府茨木市、東京都多摩市など、全国複数地域で、自治体と一緒に取り組んでいる。専門は薬学で、大塚製薬にて消化性潰瘍剤、B型,C型肝炎治療剤の開発、製造承認取得に従事した後、PwCコンサルティングを経て、2010年5月に医薬コンサルティング会社マディアを設立。

村田　禎章(奈良県商工会連合会総務課長)
奈良県御所市商工会経営指導員を経て、同事務局長。御所市域内の事業所支援ならびに地域活性化に関する諸活動への支援を行う。商業者を中心とした「行者街道プロジェクト」の推進、NPO法人ごせまちネットワーク「創」の設立支援を行い、「ごせまちの街並み保存」「霜月祭」等の事業を立上げ。その後奈良県商工会連合会に異動。奈良県商工会連合会は、県下商工会地域の事業等の支援を実施している。

隅田　貫(日独産業協会特別顧問/Senior Advisor to Metzler Asset Management Frankfurt)
1982年 東京銀行（現三菱UFJ銀行）入行。フランクフルト支店勤務などを経て、2005年独老舗プライベートバンクメッツラー・グループ本社入社。唯一の日本人として日系機関投資家向け投資顧問業務を担当。現在同グループシニアアドバイザーを務めると共に、約20年のドイツ勤務経験を活かし、日独産業協会の特別顧問としても活動中。2015年には「カン・マネジメントオフィス株式会社」を設立し、日独間の企業の橋渡しや人材育成にも尽力。著書に「仕事の生産性はドイツ人に学べ」

柴田　知栄(第一生命保険株式会社 営業調査役)
1994年第一生命保険相互会社（現在の第一生命保険株式会社）入社後、国際企画部（ニューヨーク勤務）を経て、９６年から営業職員に。1999年度から14期連続で第一生命の新契約高１位を記録（４万人の営業職員中）。2013年に営業調査役へ就任した後も個人最高記録を更新。ＭＤＲＴ（世界百万ドル円卓会議）会員。ＴＯＰ ＯＦ ＴＨＥ ＴＡＢＬＥ会員。著書に『スーパーセールス姉妹 知栄と佳栄』（日本経済新聞出版社）がある。

矢嶋　康次(ニッセイ基礎研究所研究理事・チーフエコノミスト)
専門分野は金融・日本経済全般。少子高齢化、デフレ、企業経営、財政問題、金融政策など、幅広い領域について調査・研究・政策提言を行う。「Newsモーニングサテライト」出演等メディア活動多数。『非伝統的金融政策の経済分析』（共著）で第54回（2013年度）エコノミスト賞受賞。『未来がみえた! ―10人のメンバーがみた地域発「チーム力」』の執筆や、インバウンドと地方経済についての研究、地元新潟をはじめ全国各地での講演活動など、地域活性化への思いは強い。

齋藤　好貴(なごみ邸主人)
20年前より借地人から引き取った民家を改装して地域の交流施設「なごみ邸」として活用してきた。代々の地元の地主として貸していた土地の建物が、借り主の代替わりで空き家となるケースが近年多く、現在「753プロジェクト」とともに地域の様々な機能を担うスポットとして活用しながら地域の魅力発信、不動産価値の向上に取り組んでいる。

エリオット・コンティ(一般社団法人 グローバル愛知 事務局長)
2011年1月交換留学生として来日。名古屋・南山大学在学。大阪市立大学大学院人間行動学研究科で、大阪・西成地区でのフィールドワークを卒業論文にまとめ、修士課程を修了。名古屋で「一般社団法人 グローバル愛知」の設立に参画し、現在事務局として活躍中。同法人は留学生の無料日本語教育・就職支援、企業向けのセミナーと国際化サポートを提供し、外国人と日本社会の橋渡しを目指している。

安部 有樹(技能実習生受入団体在籍)
福岡県立宗像高等学校卒業東京外国語大学 東アジア課程 中国語学科卒業現在、技能実習生受入団体に在籍

伊藤　大貴(合同会社million dots代表/アカデミック・リソース・ガイド社外取締役、フェリス女子大非常勤講師、元横浜市会議員)
建築家や演劇作家などとチームを組み、アーティスト支援拠点「THE　CAVE」を共同運営。拠点となっているのは、関東大震災の復興ビルとして建てられたイセビル。横浜大空襲もGHQの接収も乗り越えてきた、築９０年のイセビルの地下空間をリノベーションして、演劇や音楽などを中心にアーティストの作品発表の場としている。アーティストの活動支援を通じて、エリアの再構築を図っている。

関口 春江(753プロジェクト/ひとときデザイン)
2013年753cafe/shop/galleryとしてオープン。自然農法農家のワークシェア、手作り醤油の活動、自主保育活動などを実践していたメンバーが集まり、週末3日間のみの営業から開始。その後753プロジェクト始動。地主さんと関わり合いながら地域に根差すことへ積極的に挑戦していく。カフェ以外にも、地主さん所有の空き物件の相談を受け、活用を模索。毎月開催しているマルシェで人を呼び込み、場所を知り使ってもらいながら自然な流れで利用が始まるよう機会を提供。現在は3組のマルシェ出展者が営業を開始。他に、改装の参加メンバーを募りリノベーションし、現在シェアオフィス運営準備中。

井関　克行(株式会社いせき専務取締役/所沢プロペ商店街振興組合専務理事)
所沢青年会議所に在籍中は、まちづくり担当の役職が多く、航空発祥の地所沢ＰＲイベント、ライトダウンイベント、Ｂ級グルメイベント、所沢の魅力発信イベントなど多数の企画・運営に携わって参りました。また、２年前より弊社の所属する商店街の専務理事として素敵ママフェス、マスコットキャラクターのＰＲイベントなどを開催しました。

山田　英治（ソーシャルクリエイティブディレクター/映画監督）
博報堂入社後、コピーライター、CMプランナー、ソーシャルクリエイティブプロデューサーを経て、持続可能な社会をつくっていくためのクリエイティブエージェンシー(株)社会の広告社設立。兵庫県豊岡市の移住定住促進キャンペーン「飛んでるローカル豊岡」をはじめ、
全国の自治体、経済産業省などの地方創生業務の広報ブランディングを担当。7/7渋谷ユーロスペースで公開される小さな里山に暮らす人たちを描いたドキュメンタリー映画「ほたるの川のまもりびと」の監督プロデューサーでもある。

野島　優美(PRプランナー)
アパレルメーカーにて、大手百貨店店舗で店長として接客・店舗マネジメントに携わった後、2007年オズマピーアール入社。大型商業施設の施設広報、アメニティ・洗剤などの消費財広報をはじめ、ブライダル業界、バイオ業界など幅広い案件で企画立案からコンサルティング、メディア折衝まで様々なPR業務を経験。京都府、鳥取県、兵庫県神戸市、京都府福知山市など、多くの自治体のブランド力向上につながるPR活動をプロジェクトマネージャーとして指揮し、特に広報体制構築支援、人材育成等に注力。自治体や宣伝会議にてPRセミナーの講師も務める他、2017年広島県福山市の情報発信戦略会議委員、月刊「広報会議」自治体PR入門の執筆も担当。2018年よりPRプランナーとして独立。

相澤 順也(株式会社ファンドレックス　チーフコンサルタント)
丁寧な顧客ニーズのヒヤリングから最適なデータベース設計に繋げる手法に定評がある。数億円規模の団体から1千万前後の団体まで、あらゆる顧客の状況に応じて、丁寧にデータベースを設計していく。現在、データベースの導入支援を中心に、企業の社会貢献企画設計、ファンドレイジング戦略支援など、幅広い分野で顧客満足度の高い支援を行っている。

水代 優(good mornings 株式会社 代表取締役)
2002年より株式会社IDEEにてカフェやライフスタイルショップの新規出店を数多く手掛ける。 2012年にgood mornings株式会社を設立。東京・丸の内や神田を始め、全国各地で「場づくり」を行い、地域の課題解決や付加価値を高めるプロジェクトを数多く仕掛ける。「食」を軸にしたクリエイティブな空間作りを得意とし、街に賑わいを作り、地域コミュニティの拠点を生むこと、街のメディア制作までを主な事業とする。食・カルチャーを軸に、地域おこしのプロデュース、店舗の企画運営からコミュニティつくり、街のメディア制作まで幅広く手掛け、日本の良さを国内外へ積極的に発信している 。

小池　聡（日本たばこ産業東京支社副支社長）
2010年　原宿に文化発信＆世代融合の場であるIKI-BA設立◆2015年　元春日大社　権宮司　岡本彰夫氏を召喚し、守るべきモノ・コトを守り将来へ継承するための、学びと行動の場：任意団体【誇り塾】立上に関わる◆2017年　次世代（20代～30代）への日本文化の継承を企図した任意団体【歩荷塾】の設立発起人の一人として関わる。

蜂谷 潤(一般社団法人うみ路代表理事/合同会社シーベジタブル代表社員)
高知県室戸市において地域食材を切り口に総勢約1000人を巻き込んだ地域内外の交流イベント"むろとまるごとBBQ"の開催。産学官連携し室戸地域の特産品である海洋深層水を活用した海藻の陸上生産技術の確立及び生産を行う。また、海藻陸上養殖技術を応用し、全国各地で衰退した海藻資源の再生事業や障害者や高齢者の働く場づくりもおこなう。

桝田隆一郎(富山・岩瀬「満寿泉」桝田酒造社長)
あまりに発展途上アジアの日本　富山　岩瀬をヨーロピアンにも誇れる上質な生活空間へすべく奮闘中。

杉本　洋文(ローカルファースト財団副理事長/東海大学工学部建築学科特任教授)
経産省商店街よろず相談アドバイザー(14～）小田原市商工会議所「平成の城下町・宿場町構想」会長（17～）有田市地方創生プロジェクト「五つ星プロジェクト」プロデュサー（16～）南足柄・中井町ヴィレエッジ構想会長（16～)中井町なかい戦略みらい会議会長（15～）小山町政策アドバイザー（14～）NPOアーバンデザイン研究体理事長（10～）NPO小田原まちづくり応援団副理事（01～）㈱計画環境建築会長（04～）内閣府「地方自治体の公民連携推進のための手法研究会」委員（14）茅ヶ崎市（仮称）豊かな長寿社会に向けたまちづくり検討委員会　副委員長（13～14）著書「キヅカイのケンチク」東海大学出版部

三野　昌二(サンフィールドマネジメントサポート代表/総務省地域創造アドバイザー中小機構地域活性化アドバイザー)
国家戦略特区養父市前副市長、民間から就任主に特区指定を活用した地域活性化養父市100%出資のやぶパートナーズ株式会社設立、企業誘致（オリクッス野菜工場他）特産品の販路開拓（朝倉山椒の海外販路開拓）など。

岩瀬 達哉(ジャーナリスト)
2004年、『年金大崩壊』『年金の悲劇』（ともに講談社）で、講談社ノンフィクション賞を受賞。おもな著書は、『新聞が面白くない理由』（講談社）、『血族の王　松下幸之助とナショナルの世紀』（新潮社）。新刊に『ドキュメント　パナソニック人事抗争史』（講談社＋α文庫）。現在、厚生労働省社会保障審議会の年金事業管理部会委員を務める。

戸田 佑也(株式会社あらまほし代表取締役)
教育学を専攻し、在学中に外国人児童・生徒への日本語学習ボランティアや、東日本入国管理センターに収容されている難民への面会ボランティア活動に携わり、人種・国籍などによる制度的不利がない社会の構築を志すようになる。三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社で、主に地方自治体における地域振興・産業政策に関する調査・コンサルティングに取り組む。株式会社あらまほし代表取締役に就任。地方自治体の調査コンサルティング、研修講師などを行っている。

志賀　久美子(合同会社million dots秘書兼企画担当役員/753プロジェクト、753cafe/shop/gallery運営)
ライフワークとして、横浜市緑区にある古民家カフェ（753cafe/shop/gallery)を拠点に、月１マルシェや各種イベントの開催、空き家の有効活用などを通してその辺り一帯のエリアプロデュースをしている（Wedge7月号に掲載）。本業でも各種まちづくりに携わっている。

大谷浩之介(753プロジェクトメンバー/NPO法人横浜コミュニティデザイン・ラボ事務局)
横浜市緑区中山町での空き家活用を軸とした地域の魅力発信を、カフェの立ち上げ、マルシェ運営等を通して実践。また、醤油づくりの活動を通したコミュニティの再興、食と生活環境の見つめ直しに取り組んでいる。

大島　康正(㈱スマートコートPRO代表取締役)
現在、鹿児島県志布志市と言う田舎に住んでいます。また生まれ育った岡山県笠岡市も消滅都市に名前を上げられ、地域再生の為に、小さな個人の力で何かお役に立てないか勉強させて頂きたく参加を希望いたします。

佐藤　芳治(北海道上川町長)

小田垣　栄司(ノヴィータ代表取締役会長)

木下　健介(プロペ商店街振興組合副理事長)

岡本　啓吾(株式会社Okatos Hero Real Estate代表取締役社長)

葛西　堂弘(大末建設　執行役員建設営業部長)

中村　俊介（上川大雪酒造取締役/極東産業代表取締役社長）

根本　晴三（上川大雪酒造事業本部長/極東産業執行役員）

池田　研一（個人事業主）

池本　博則（マイナビ執行役員・地方創生農業担当）

猪塚　里佳（マイナビ農業活性事業部）

境　一磨（経済産業省中小企業庁出向　菊池市職員）

鈴木　崇弘（城西国際大学大学院教授）

田中　稔（上川大雪酒造監査役/レコルテ代表/公認会計士

田中　一也（ＫＤＤＩビジネスＩｏＴ推進本部）

新村　銀之助（上川大雪酒造クリエイティブディレクター）

橋本　賢二（上川大雪酒造取締役/日立トリプルウィン取締役）

林　兼生（野村證券大阪支店金融公共法人部長）

柚木　憲一（上川大雪酒造特別顧問/ふるさと財団前理事長）

飯田　敦（トラストバンク）

田口　創一郎（日本航空健保組合常務理事）

吉田　仁美（アムテック株式会社取締役）

國松　孝次(未来を創る財団会長/救急ヘリ病院ネットワーク会長)
専門分野：社会安全政策　研究テーマ：ドクターヘリの全国普及方策、定住外国人政策　元警察庁長官・駐スイス全権大使　静岡県浜松市、兵庫県豊岡市などで「外国人問題に関する地域意見交換会」を主催し、パネリスト、地域住民、有識者と交流を重ねるほか、福岡市では「新移民時代クフオカ円卓会議」を共催し、地域住民200人らと交流。

石坂　芳男(未来を創る財団代表理事)
"専門分野：マーケティングとりわけ海外マーケティング　研究テーマ：リーダーシップ、中央アジアの文化と歴史　愛知県名古屋市、秋田県大潟村ならびに仙北市、東京都新宿区、長崎県大村市などで「外国人問題に関する地域意見交換会」を主催。パネリスト、地域住民、有識者と交流を重ねるほか、福岡市では「新移民時代クフオカ円卓会議」を共催者として交流。元　トヨタ自動車副社長。

麻植　茂(未来を創る財団　事務局長)
専門分野：資本会計・経営アドバイザー　研究テーマ：ギリシャ人の源流、リベラルアーツが果たすべき役割　元公認会計士 未来を創る財団主催「外国人に関する地域意見交換会」開催のため、愛知県名古屋市、静岡県浜松市、秋田県大潟村ならびに仙北市、兵庫県豊岡市、東京都新宿区、長崎県大村市を歴訪し、事前の情報収集、意見交換を重ねるほか、福岡市で西日本新聞社と共催の「新移民時代クフオカ円卓会議」開催を運営した。

浜村浩幸（太陽グラントソントン税理士法人代表社員/未来を創る財団　評議員**）**

イノウエヨシオ(株式会社ファンドレックス　ファンドレイジング・プロデューサー)
ＮＰＯや社会起業家の発信力強化のために「共感が拡がる活動紹介ＣＭ（共感ＣＭ）」と「コンパクト・ダイヤログ」等を軸とした「発信力強化研修」モデルを開発し、全国各地で大きな変化を生み出してきている。「自分たちで映像を作成できる」レベルにまでもっていく研修スキルは評価が高く「共感ＣＭ」作成支援の第一人者。また、各地でチャリティイベント企画・運営の仕掛け人として活躍する一方、地域における「志」金循環をテーマにした研修では年間３０００名以上に講演して高い評価を得ている。

川瀬　政美(地域課題ソリューション・デザイナー)
コンサルタントとして、東京都多摩市での見守り拠点づくりなどを大手物流会社と共に企画・運営。人材育成の研修講師なども務める。ボーイスカウト日本連盟社会連携広報委員として、地域での子どもや高齢者の居場所づくりなどに取り組む。

塩川　慎也(Wedge編集長)
1979年、大阪府生まれ。2007～10年にWedge編集部に所属、15年に雑誌制作の現場に戻り、16年7月から現職。少子高齢社会を取り巻く諸問題（地域再生、外国人労働者、医療・介護、地域交通、土地など）について発信しています。

友森　敏雄(Wedge編集部/Wedge Infinity編集長)
山口県徳山市生まれ、広島市育ちです。Wedge誌連載の「地域再生のキーワード」の担当編集者をしてきました。

生津　勝隆（写真家）立教大学社会学部社会学科卒業後、University of Missouri-Columbia School of　Journalismで修士課程を修める。専攻はフォト・ジャーナリズム。「人」と「社会」に興味を持ちながら写真家として活動。2006.8 -2017.6 ”COURRiER Japon”、2014.4 -2018.2 “Wedge”のフォト・エディター。同時に、フォト・ジャーナリストとして国内外の企業、要人、社会問題の取材に携わる。“Wedge”では、本連載『地方創生のキーワード』を担当。2015年6月、第一子の誕生を機に、東京から徳島県神山町に移住。イメージに特化したコンサルティング・ファーム「しわしわ」を設立(www.siwasiwa.jp)。フォト・ジャーナリストとフォト・エディター両方の経験と視点を活かしながら、企業、個人、店舗、自治体のイメージ構築を手助けする。

磯山　友幸(経済ジャーナリスト)
1962年生。早稲田大学政治経済学部卒。87年日本経済新聞社に入社し、大阪証券部、東京証券部、「日経ビジネス」などで記者。その後、チューリヒ支局長、フランクフルト支局長、東京証券部次長、「日経ビジネス」副編集長、編集委員などを務める。現在はフリーの経済ジャーナリスト。『2022年「働き方」はこうなる』（ＰＨＰビジネス新書）など著書多数。地域おこしの現場を歩き、ユニークな取り組みをまとめた「地域再生のキーワード」を4年にわたって月刊Wedgeに連載した。

赤澤　明日香（明治大学経営学部/経済戦略構想インターン）